

第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人鹿屋体育大学

1 全体評価

鹿屋体育大学は、全国でただ一つの国立の体育大学という特性を十分に生かし、健全な身体と調和・共生の精神を併せ持つ人材の育成に必要なスポーツ・身体運動を通じて、創造性とバイタリティに富む有為の人材を輩出するとともに、体育・スポーツ学分野における学術・文化の発展と国民の健康増進に貢献し、もって健全で明るく活力に満ちた社会の形成に寄与することを目指している。第3期中期目標期間においては、国際社会で活躍できる有為な人材を養成するとともに、東京オリンピック・パラリンピック大会での活躍を目指す学生をはじめ、国内のトップアスリートの競技力向上につながる科学的サポートを実施すること等を基本的な目標としている。

中期目標期間の業務実績の状況及び主な特記事項については以下のとおりである。

| | 顕著な成果 | 上回る成果 | 達成 | おおむね達成 | 不十分 | 重大な改善 |
|--------|-------|-------|----|--------|-----|-------|
| 教育研究 | | | | | | |
| 教育 | | | ○ | | | |
| 研究 | | ○ | | | | |
| 社会連携 | | | ○ | | | |
| その他 | | | ○ | | | |
| 業務運営 | | | ○ | | | |
| 財務内容 | | | ○ | | | |
| 自己点検評価 | | ○ | | | | |
| その他業務 | | | ○ | | | |

（教育研究等の質の向上）

実践的なスポーツ指導力やマネジメント力等のスポーツ指導者として求められる基礎的な能力を可視化するプロフィール型テスト「スポーツ指導者基礎力テスト（SCCOT）」を企業と共同で開発しており、学内外の学生等に対して実施している。また、充実したスポーツ研究施設・設備と、これまで蓄積した体育・スポーツにおける実践知を生かし、トップアスリートの育成・強化を目指した「Top Athlete Support System (TASS) プロジェクト」を実施し、特に、スプリント走に関する研究において、50m走路フォースプレートやモーションキャプチャシステム等で取得したデータを即時にフィードバックできるシステムを開発し、スプリント走のデータベースを活用した様々な研究を行っている。

（業務運営・財務内容等）

日本版NCAA「KANNOYAモデル」において、各種スポーツイベントの開催等、地域におけるスポーツを「する・みる・ささえる」文化の醸成及び大学スポーツを通じた地域活性化に取り組んでいる。令和元年度からは、「KANNOYAモデル」の地域活性化戦略事業を集約し、スポーツを通して地域の交流の輪を広げることを新たに加え、より大学と地域の一体

81 鹿屋体育大学

感を醸成する「Blue Winds 事業」として展開し、大学スポーツの振興により鹿屋市を中核とした地域の活性化を図っている。また、大学が有する設備の国内外へのアピール及びトップアスリートの受入等を目的として、スポーツパフォーマンス研究センターのパンフレット及びウェブサイトの多言語化を実施し、東京オリンピックの事前キャンプ地の誘致活動等に活用している。

2 項目別評価

I. 教育研究等の質の向上の状況

| <評価結果の概況> | 顕著な 成果 | 上回る 成果 | 達成 | おおむね 達成 | 不十分 | 重大な 改善事項 |
|--------------------------|-----------|-----------|----|------------|-----|-------------|
| (I) 教育に関する目標 | | | ○ | | | |
| ①教育内容及び教育の成果 | | | ○ | | | |
| ②教育の実施体制 | | | ○ | | | |
| ③学生への支援 | | | ○ | | | |
| ④入学者選抜 | | | ○ | | | |
| (II) 研究に関する目標 | | ○ | | | | |
| ①研究水準及び研究の成果 | | ○ | | | | |
| ②研究実施体制等の整備 | | | ○ | | | |
| (III) 社会連携及び地域に関する 目標 | | | ○ | | | |
| (IV) グローバル化に関する目標 | | | ○ | | | |

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4項目のうち、4項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目）

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）7項目のうち、1項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、6項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

81 鹿屋体育大学

1-1-1 (小項目)

【判定】中期目標を達成し、優れた実績を上げている

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「SCCOTの開発と実施」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 学修成果の可視化

カリキュラムマップ及び「体育学部のディプロマ・ポリシーで目指す12の資質・能力と授業科目との関係一覧表」を作成し、各授業科目で修得する資質・能力を明示している。また、12の資質・能力ごとに関連する授業科目の成績評価におけるGPAを算出することで、学修成果として可視化できるようになり、学生自身が身につけるべき能力の把握が可能となっている。(中期計画1-1-1-1)

○ SCCOTの開発と実施

実践的なスポーツ指導力やマネジメント力などのスポーツ指導者として求められる基礎的な能力を可視化するプロフィール型テスト「スポーツ指導者基礎力テスト

(SCCOT)」を企業と共同で開発しており、令和元年度末時点で学内外の学生等約2,300名に対して実施している。(中期計画1-1-1-3)

1-1-2 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ アクティブ・ラーニングの推進

学生の主体的な学修に向けてアクティブ・ラーニング (AL) の授業科目への導入を100%にするため、学生からの授業評価の高い授業科目及びALを活用した授業科目の授業参観を実施するなど、ALの推進を行っており、授業科目へのALの導入率は平成30年度に100%を達成している。(中期計画1-1-2-1)

○ シラバスの記載充実

平成30年度からシラバスに予習・復習・レポート等の授業時間外学習の内容や時間を明記するとともに、教育課程全体及び授業科目ごとに修得すべきミニマムな学修課題 (ミニマム・エッセンシャル) を作成し、主体的な学修の方向付けに取り組んでいる。その結果、令和元年度の授業時間外学習時間は平成28年度と比較して1.4時間/週増加している。(中期計画1-1-2-1)

1-1-3 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

1-1-4 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ NIFSpassによる学修の振り返り促進

平成29年度に学生が毎学期の学修成果を確認・反省するための学修ポートフォリオシステム (NIFSpass) を整備し、平成30年度から運用を開始している。授業科目群ごとのGPA及び「スポーツ指導者基礎力テスト (SCCOT)」を用いたスポーツ指導者としての基礎的能力の評価結果等について、グラフ等により可視化し、所属の平均と自己のデータを比較して確認できるようにしている。また、学びの目標及び学修成果を可視化する意義や効果について解説するパンフレット『鹿屋体育大学での4年間で充実する秘密の書』を作成し全学生に配付しており、学びのPDCAサイクルを周知することで学生に学修の振り返り・改善を促している。その結果、令和元年度の授業時間外学習時間は平成28年度と比較して1.4時間/週増加している。(中期計画1-1-4-1)

1-1-5 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

1-1-6 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

81 鹿屋体育大学

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 大学院教育の進展

平成28年度に筑波大学及び日本スポーツ振興センターと連携した修士課程スポーツ国際開発学共同専攻、及び筑波大学と連携した3年制博士課程大学体育スポーツ高度化共同専攻を設置し、国際的な人材養成に取り組んでいる。また、博士後期課程体育学専攻の「体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム」について、平成29年度に宮崎大学と連携・協力に関する協定を、令和元年度に熊本大学とこれまでの博士後期課程体育学専攻に加え、修士課程体育学専攻まで拡大した連携・協力に関する協定を締結しており、大学院教育の充実を図っている。(中期計画1-1-6-1)

1-1-7 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 大学院生へのキャリア支援

産業界と連携したインターンシップや地域社会等と連携したフィールドワーク等を通じて理論と実践を結びつける機会を提供するために、平成30年度から修士課程に「コープ特講演習・実習」、博士後期課程に「コープ特殊研究・実習」の授業科目を新設し、大学院生のキャリアパス形成を支援している。(中期計画1-1-7-1)

1-2教育の実施体制等に関する目標 (中項目)

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 4項目のうち、4項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

1-2-1 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

1-2-2 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 新型コロナウイルス感染症下の教育

体育大学という特性を踏まえ、新型コロナウイルス感染症による影響下においても、実技・実習科目の対面授業による実施のため、手指の消毒等の感染対策の徹底、オリエンテーションの動画配信及び少人数グループでの実施等の工夫を行っている。また、実技の授業においては、タブレット端末を活用し、対面授業時に撮影したフォーム等の映像をオンライン授業時に振り返り、次回の対面授業時にフィードバックする取組も行っている。

1-2-3 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

1-2-4 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

1-3 学生への支援に関する目標 (中項目)

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

1-3-1 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

81 鹿屋体育大学

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 就職率向上への支援

平成29年度からキャリア・コンサルタント有資格者を採用して、就職相談に対応しているほか、キャリア・コンサルタントを講師に招いた就職塾（年2回）や全学年を対象とした就職ガイダンス（年2回）等を開催している。また、就職活動経験のある大学院生・学部上級生（キャリアサポーター）による支援体制を整備しており、令和元年度には、授業や就職ガイダンス、就職塾において、就職の内定を得た学生による講話や座談会等に50名の学生が従事している。その結果、令和元年度における体育学部の就職率は100%となっている。（中期計画1-3-1-1）

1-3-2（小項目）

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 学生への経済的支援の充実

平成28年度から学生を教育的配慮の下に学内の業務に従事させ、学生の職業観、勤労観を涵養するとともに学生の経済的支援を行うことを目的とする学内ワークスタディを実施し、令和元年度には19名（581時間）の学生を雇用している。また、平成29年度に鹿屋体育大学修学支援基金を設置し、令和元年度には大学院生4名に対し入学料半額免除を実施している。修学支援基金により支援を拡充したことで、令和元年度は学業成績や経済状況等の基準を満たした申請者全員に対し、大学院の入学料半額免除を実施している。（中期計画1-3-2-2）

1-4 入学者選抜に関する目標（中項目）

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

1-4-1（小項目）

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標(中項目)2項目のうち、1項目が「中期目標を上回る成果が得られている」、1項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果(研究)を加算・減算して総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

2-1 研究水準及び研究の成果等に関する目標(中項目)

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

2-1-1 (小項目)

【判定】 中期目標を達成し、優れた実績を上げている

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「優れた施設と経験を活かしたTASSの実施」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 優れた施設と経験を活かしたTASSの実施

充実したスポーツ研究施設・設備と、これまで蓄積した体育・スポーツにおける実践知を活かし、トップアスリートの育成・強化を目指した「Top Athlete Support System (TASS) プロジェクト」を実施している。特に、スプリント走に関する研究において、50m長走路フォースプレートやモーションキャプチャシステム等で取得したデータを即時にフィードバックできるシステムを開発し、スプリント走のデータベースを活用した様々な研究を行っている。その結果、平成29年度以降、査読付きの国際誌において30編以上の研究論文が掲載され、被引用数は計230回以上となっている。(中期計画2-1-1-2)

81 鹿屋体育大学

(特色ある点)

○ グローバル貯筋研究の展開

地方自治体等と連携し普及を図ってきた「貯筋運動」を、国内だけでなく海外でもグローバル貯筋研究プロジェクトとして推進しており、中国、韓国、台湾、タイ、ドイツの5つの国・地域において、国際交流協定校等と連携し、貯筋運動の介入研究等を平成26年度から平成30年度にかけて実施している。その結果、研究成果を学術論文として11件公表している。(中期計画2-1-1-3)

2-2研究実施体制等に関する目標 (中項目)

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

2-2-1 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

(Ⅲ) 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目) 3項目のうち、3項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

3-1-1 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ KANOYAモデルの立ち上げ

スポーツ庁委託事業「日本版NCAA(全米大学体育協会)創設事業」として「KANOYAモデル」事業を立ち上げ、地域密着スポーツブランドBlue Winds創設、市民参加型運動会「かのやエンジョイスports」や大学スポーツを観戦・応援する市民向けイベント「カレッジスポーツデイ」の開催等の取組を行っている。その結果、大学の施設利用・訪問者数が増加しており、令和元年度は80,591名に上り、平成28年度と比較して約69%増加している。(中期計画3-1-1-1)

○ 地域への多様な学習機会の提供

地域のニーズや自治体の要請に応え、地域への多様な学習機会の提供の場として、小中学生を対象とした競技力向上につながる公開講座、中高齢者を対象とした健康増進のための公開講座及びオリンピズム・パラリンピズムの普及のためのオリンピック・パラリンピック関連の公開講座等を年間15講座以上開設しており、平成28年度から令和元年度にかけて、計2,914名(年度平均729名)が参加している。(中期計画3-1-1-1)

○ NIFSスポーツクラブへの支援

大学を基盤とする総合型地域スポーツクラブNPO法人NIFSスポーツクラブの定期活動に対して、平成28年度から令和元年度の毎年度、指導者・指導補助者として教員8名から11名、学生約80名を派遣し、スポーツ施設を貸与するなど、継続的な支援を行っている。(中期計画3-1-1-2)

81 鹿屋体育大学

3-1-2 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 共同研究・受託研究の推進

企業や自治体等への広報活動として、産学官連携用パンフレットを作成しているほか、東京で開催されるスポーツ・健康産業総合展示会SPORTECへの毎年度の出展、「イノベーション・ジャパン2019ー大学見本市」や「新技術説明会」等の展示会への出展・参加等行っており、共同研究や受託研究等につなげている。また、教員の持つシーズについて、鹿児島県内の支援団体の協力により、県内企業とのつながりを模索している。これらの取組の結果、共同研究・受託研究の受入件数は、平成28年度から令和元年度に、14件から26件に増加し、事業成果として、スポーツウェアやアプリ、体操、機能性食品の共同開発を行っている。(中期計画3-1-2-1)

3-1-3 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ PALSプロジェクトの展開

運動による健康の保持増進に関する研究を実施する「Promotion of Active Life Style (PALS) プロジェクト」の1つとして実施している「離島在住高齢者を対象とした持続性の家庭型・地域型運動教室とその効果」に関する研究プロジェクトでは、高齢者を対象とした家庭型運動と定期的な運動介入により機能的体力の向上が見られ、鹿児島県の離島在住者の健康増進に寄与するとともに、地元新聞に取り上げられるなど社会的関心も集めている。(中期計画3-1-3-1)

(Ⅳ) グローバル化に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

4-1-1（小項目）

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 外国人研究者・留学生の受入れ推進

外国人研究者及び留学生の受入れを推進しており、平成27年度12名（研究者0名、留学生12名）に対し、令和2、3年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は9名（研究者1名、留学生8名）、令和3年度は11名（研究者1名、留学生10名）となったものの、令和元年度は28名（研究者16名、留学生12名）と約2.3倍に増加していた。（中期計画4-1-1-1）

○ 国際スポーツ・アカデミー形成支援事業

国際スポーツ・アカデミー（NIFISA）形成支援事業として、NIFISAセミナー（年2回程度）、国際スポーツ・アカデミーシンポジウム及び国際カンファレンスを開催し、アジア各国・地域から集まった若手研究者や指導者に対して、オリンピック及びスポーツの思想や歴史、医学や生理学の研究や教育に関する講義を実施しており、平成28年度から令和元年度にかけて、38の国と地域から103名の若手研究者や指導者が参加している。また、この事業には鹿屋体育大学の学生もボランティアとして参加しており、アジア各国の参加者と関わることで、アジアにおけるネットワークの拡大や学生の国際感覚の醸成を図っている。（中期計画4-1-1-2）

| |
|------------------|
| Ⅱ. 業務運営・財務内容等の状況 |
|------------------|

| ＜評価結果の概況＞ | 顕著な 成果 | 上回る 成果 | 達成 | おおむね 達成 | 不十分 | 重大な 改善 |
|-------------------|-----------|-----------|----|------------|-----|-----------|
| (1) 業務運営の改善及び効率化 | | | ○ | | | |
| (2) 財務内容の改善 | | | ○ | | | |
| (3) 自己点検・評価及び情報提供 | | ○ | | | | |
| (4) その他業務運営 | | | ○ | | | |

| |
|--|
| (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標 |
| ①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化 |
| 【評定】中期目標を達成している |
| (理由) 中期計画の記載11事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。 |

| |
|---|
| ＜特記すべき点＞ |
| (優れた点) |
| ○ スポーツを通じた地域活性化モデル確立のための組織体制整備 |
| 地域・大学が一体となった大学スポーツ振興モデルの事業展開を行うため、日本版NCAA「KANOYAモデル」を始動させ、各種スポーツイベントの開催等、地域におけるスポーツを「する・みる・ささえる」文化の醸成及び大学スポーツを通じた地域活性化に取り組んでいる。令和元年度からは、「KANOYAモデル」の地域活性化戦略事業を集約し、スポーツを通して地域の交流の輪を広げることを新たに加え、より大学と地域の一体感を醸成する「Blue Winds事業」として展開し、大学スポーツの振興により鹿屋市を中核とした地域の活性化を図っている。 |
| ○ 学内共同教育研究施設の再編によるスポーツパフォーマンス研究の推進 |
| スポーツパフォーマンス研究をより推進するため、寄附金や学長裁量経費、機能強化経費等を活用して、学内共同教育研究施設を再編し、平成30年度にスポーツパフォーマンス研究センターを設置している。本センターやプールに設置した最先端の設備でオリンピック・パラリンピック選手等のパフォーマンス測定を行っており、第3期中期目標期間中にパフォーマンス測定に訪れたトップアスリートは235名となっている。 |

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の記載4事項全てが「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 財政基盤強化に関する取組による外部資金比率の増加

地元企業から多額の寄附金を受け入れるとともに、SPORTEC（スポーツ・フィットネス総合展示会）へのブース出展・新技術説明会への参加等の広報活動の実施、スポーツパフォーマンス研究センターの設置によるパフォーマンス研究の推進等の取組により、第3期中期目標期間の寄附金における外部資金比率が1.7%（第2期中期目標期間平均額より1,350万円増）、受託研究における外部資金比率は0.6%（第2期中期目標期間平均額より606万円増）となっている。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期目標を上回る成果が得られている

(理由) 中期計画の記載2事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、一定以上の優れた点があること等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ オリンピック・パラリンピックの事前キャンプの誘致

大学が有する設備の国内外へのアピール及びトップアスリートの受入等を目的として、スポーツパフォーマンス研究センターのパンフレット及びウェブサイトの多言語化（英語、フランス語、中国語、台湾語、韓国語、スペイン語、タイ語）を実施し、東京オリンピックの事前キャンプ地の誘致活動等に活用した。本取組や自治体と連携したPRの結果として、タイ王国（バレーボール）と鹿屋市、トリニダード・トバゴ共和国（陸上競技）と大崎町、台湾（陸上競技）と大崎町において、オリンピックの事前合宿に係る協定・覚書の締結につながった。

81 鹿屋体育大学

○ 特色ある情報発信

民間出版社の編集長経験者を広報の特任専門員として採用するなど広報活動を強化しているほか、南日本放送のテレビ番組内で、大学が推奨する「健康運動」と「貯筋運動」を継続的に放送し、大学の健康スポーツ科学に関する取組を情報発信するなど特色ある情報発信を行い、県民の健康増進に貢献している。「健康運動」と「貯筋運動」は毎回の放送を約2万から5万人の県民が視聴しており、令和3年度1年間でみると鹿児島県民の延べ約25万時間分の運動時間を確保したこととなる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の記載9事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。